

平成 28 年度青梅市子ども子育て検証報告修正事項

頁	ご意見・ご要望／質問 (質問の場合は【質問】と表記しています。)	回答
1 幼稚園・ 幼児園	改善点について、どのような手段を用いて利用者数の増加を図るのか、より具体的に記載願いたい	「子育てネット」を立ち上げています。今後もネットワーク、広報チラシ含め情報発信に努めていきたいと考えております。
	「子育て広場」等に幼稚園等のチラシを置いてみては？	子育て支援センター、東青梅・河辺市民センター内のひろばでは、幼稚園等からの依頼があれば可能である。
	(幼稚)園ごとにホームページを立ち上げているところとそうでないところがある。市が(ホームページ作成等)相談に乗ればいいのだが。	相談がございましたら、個別に対応させていただきます。
【質問】	西部・北部地区の(保育園)定員割れの原因は、サービスの質の問題か？PR 不足か？	アンケート結果からは、幼年人口の地域偏在が原因と思われます。
4 認可保育 所等	改善点について、「保育園の事業継続性を図るため～を行う」とか、「具体的に～等を実施する」など記載すべきなのでは？	定員に満たない園の入所率を上げるための方法については現在検討をしておりますが、現時点で明記する段階に至っていないためこのままの表記とさせていただきます。
8 事業所内 保育事業	企業内枠と一般枠の内訳は？	合計(定員)19 人に対し企業内枠 6 人、一般枠 13 人でありました。
【質問】		
10 利用者支 援事業	見込量と確保提供総数および現状数の表のうち、「利用申請者数」「提供実数」を「設置数」へ修正した方がよい。	表記方法を検討します。 なお、H28 相談件数 594 件で、育児不安、健康その他が主な相談内容でありました。
【質問】	子ども家庭支援センターと、子育て支援センター(はぐはぐ)や河辺 C、青梅 C との役割分担は？	子ども家庭支援センターは本庁内に設置されており、児童相談所のような組織であり、内容が重い相談が多く、はぐはぐ等は、身近な相談や比較的軽微な相談を受けている。
13 乳幼児家 庭全戸訪 問	見込量と確保提供総数および現状数の表のうち、「利用申請者数」「提供実数」を「訪問数」「妊婦数」等と修正した方がよい。	一元的な表現ではなく、各事業内容にそった表現への見直しの可能性を探ります。 なお、出生数 831 人に対し、訪問可能数 809 人であった。他は訪問拒否が 4 人、転出 11 人、その他 7 人でありました。
	絵本の提供など良い事業も実施していることなども記載したらいいのでは？	取組内容に「また、訪問の際に、ブックスタート事業の絵本の配布も併せて実施しました。」等の記入を検討します。

【質問】	民生児童委員と市職員の役割分担はあるのか？	原則、民生児童委員へお任せしている。特定妊婦など特に配慮が必要な方については市職員が民生児童委員と共に、または市職員と子ども家庭支援ワーカーが訪問しております。
【質問】	訪問に対し消極的な方、拒否される方に対する対策は？	拒否されるケースは殆どございません。
	都民連の会議で情報交換すると、これほどスムーズに事業実施しているのは三鷹、青梅くらいである。	ー
15 新生児訪問 【質問】	改善点記載内容について、「開設予定」の具体的な時期は？	現在協議中で、可能であれば本年度中に開設したいと考えている。
16 未熟児訪問	見込量と確保提供総数および現状数の表のうち、「利用申請者数」については、申請に基づいて事業実施している訳でないため修正した方がよい。	次年度用シートにて「利用対象者数」と修正いたします。
17 子育て短期支援事業 【質問】	小学生世代までの事業拡大について、将来的な見通しは？（都は「ショートステイの強化」を求めており補助制度もある）	生後 57 日目からの取り組みは他の自治体では見られない取り組み。恵明学園で就学児のショートステイ事業を実施する場合に、学校への送迎をどう確保するかが課題となる。
【質問】	一般家庭で短期間、子どもを預けられるような取り組みはあるか？	虐待等受けた児童が利用している「養育家庭」制度の利用が増加しているが、養育家庭が不足している。
25 学童保育 【質問】	今春開設した大門こどもクラブの利用状況は？また今後の待機児童解消策は？	大門こどもクラブは順調に利用者を集めています。待機児童も 1 年前と比較しほぼ半減しています。今後も計画に従い施設整備を進めていきます。
	市内社会福祉法人で、学童クラブのような事業を実施しているところがある。情報発信があった方がよいと思うが？	リバーパレス青梅、九十九園で放課後の子どもの居場所づくり的な事業を実施していると聞いています。民生委員等ボランティアと寮母等が交代で一緒に遊んだり、宿題を手伝ったりしているようです。カントリービラ青梅も、孤食対策とセットで実施する予定であると聞いています。市として情報発信出来るのか研究していきたい。

	学校内に空き教室が無い場合、学童クラブが整備できないと聞くが？	生徒数は減少し、普通教室は余剰となるが、特別支援学級等の整備を進めているため学童クラブの増設は予想以上に困難な状況である。引き続き学校長へ働きかけを続けていきたい。
29 放課後子ども総合プラン	見込量と確保提供総数および現状数の表のうち、「利用申請者数」については、「ヶ所数」に修正した方がよい。	次年度用シートにて「ヶ所数」と修正します。
【質問】	放課後子ども教室の実施回数を増やしたい。また、学童クラブと一体的連携が上手くいっていないとも聞く。その理由は何か？	放課後子ども教室を実施するためのボランティアの確保に引き続き取り組んでいきたい。また、学童クラブとのスケジュール調整を今後は十分図って参ります。
30 ファミリー・サポート・センター 【質問】	21 ページと事業が重複しているのか？	21 ページは、本項目のファミリー・サポート・センター事業を含めた一時預かり事業となっています。表題について名称を整理します。
31 妊婦健康診査 【質問】	高い受診率を維持している割に、引き続き受診率を上げるとはどういうことでしょうか？	市外転出や、妊娠健康診断を全回受診する前に出産してしまったケースなどを除くと、未受診は殆どありませんが、引き続き周知・勧奨を行うという意味です。
35 (No5) マル親 【質問】	(マル親について)何歳まで対象となるのか？	所得制限があるため全てのひとり親が対象となるわけではありません。所得制限に係らない家庭の子が18歳に達した年の3/31まで対象としています。課税世帯は1割負担、非課税世帯は自己負担なしです。月額上限は12,000円/外来、14,400円/入院となっております。
37 (No11) 就学前教育の充実と小学校との連携	学校公開を行っているというだけでA評価は甘いのではないかと、本来の幼小の連携はもっと深いところで研究すべき。	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会における就学児競技の参加 ・学校公開日における授業参観 ・学校訪問時における児童との交流 例：1年生と昔遊びの交流（生活科での学習） 6年生の教室に入り、実際に椅子に座ってみるなどの体験など。を実施した結果、担当課でA評価を付けたものであります。
46 (No29) 幼児体操	28年度述べ参加人数31と、本文中の「81組」の関係は？	従来の事業の参加者が31人に対し、生後5ヶ月～1歳未満対象の「親子ベビーコンタクト事業」参加者が81組あったということ。平成28

教室の開催 【質問】		年度から指定管理者制度を導入し、事業のバランスを図りました。
---------------	--	--------------------------------